

す。また、もう一つ大事なことは介護に触れるきっかけづくり。そこで、「介護に関する入門的研修」も今年から実施します。市内で介護の基礎が学べるチャンスですので、多くの方にご参加いただきたいと思っています。

― 介護にまつわる思い出深い体験談をお聞かせください。

坪井さん 以前、認知症があり、激しく暴れる利用者さんがいらつしやいました。職員は最後まで介護を尽くしました。お元氣だった頃の利用者さんのお人柄などをご家族から聞いて、本人の心情をおもえばかり、寄り添ったのです。お葬式でご家族から「母に向き合ってくれてありがとう」



介護の仕事はクリエイティブで面白い。多くの方に、介護に触れる機会を持ってもらいたい。

と笑顔で感謝されたときは、心から職員を誇りに思いました。

藤原さん 私も、認知症の方の介護の体験談です。夫婦で入所された方でしたが、ご主人様に認知症の症状があつたので、「わからないから、いいだろう」と夫婦別々のお部屋にしました。後日、奥様が先に亡くなったとき、ご主人様から「なぜ一緒の部屋にしてくれなかったのか」とはつきりと言われ、深く後悔したことを覚えています。それ以来、介護のプロとして利用者目線に徹しようと自らに誓っていました。

小川課長 行政職員としての話になりますが、平成12年に現在の介護保



介護の実態を知ってもらうことが大切。職場環境が快適になっていくことを伝えたい。

険制度が始まったとき、私は旧安岐町の介護保険の担当者でした。制度の普及を進めるにあたり、しらすぎの定村章二先生(故人)には大変お世話になりましたね。今につながる地域の介護保険の仕組みづくりにご尽力いただきました。通算15年ほど介護保険に関わってきましたが、情熱を持って介護業界の発展に取り組む定村先生のお姿を思い出して、業務にあたっています。

― 就職を控える若者や介護に興味がある方に向けてメッセージをお願いします。

小川課長 介護の質をより良くしていくためには、介護従事者が横につな



介護のイメージアップが必要。若い人に、市の介護を盛り上げていく力になってほしい。

がる場が必要だと感じています。一つの案として、介護従事者の交流の場となる、事業所を超えた連絡会があつたらよいのではないかと思います。ぜひ若い方には専門性の高い介護を目指してもらって、介護従事者のつながりの輪に加わってもらい、市の介護を盛り上げていく力になってほしいです。

坪井さん 人生の大先輩である高齢者から学べることはたくさんあります。介護を通じて、きっと人として成長できるものが得られるはず。そして介護は、改善や工夫の余地がいくらでもあり、クリエイティブ(創造的)で面白い。体験するだけでも、そうした介護の面白さに触れることができます。多くの方に、介護に触れる機会を持ってもらいたいですね。

藤原さん 介護の仕事は大変なこともありますが、それ以上に、大きなやりがいがあります。介護二筋22年ですが、すばらしい仕事に巡り合つたと実感しています。この間、介護現場は大きく様変わりしました。今後も介護がどう変わっていくのか、ワクワクしています。日々進化する介護の世界で、一緒に楽しみながら仕事ができる日を楽しみにしています。

伝えたい 介護への思い

特別対談

市内の介護サービス事業所は、人材不足に直面しています。その原因と解決策を、関係者はどのように考えているのでしょうか。また、長年介護業界に関わってきたからこそ言える、「介護の魅力」「仕事のやりがい」とは何でしょうか。事業所の経営者、介護従事者、市の介護事業のトップが一堂に集まり、それぞれの立場から、皆さんへ伝えたい「介護への思い」を語っていただきました。



医療法人 ほとけの里
はるかぜ
理事 坪井 竜一 さん

社会福祉法人 安岐の郷
特別養護老人ホーム むさし苑
介護統括 藤原 広人 さん

国東市高齢者支援課
課長 小川 浩美

― 介護人材の不足は何が原因だと思えますか。

小川課長 これから就職する若い人たちに、介護の仕事は「きつい」「汚い」「危険」という、いわゆる「3K」と思われているからではないでしょうか。今は核家族化が進み、祖父母と接する機会が少ないので、「老い」や「介護」を身近に感じられない。介護を肯定的に捉える機会がなくなっていると思います。

藤原さん 私も、良くないイメージが一番の原因だと思います。トイレのお世話や力仕事といった印象が強く、就職先として介護業界が避けられている。しかし、今の介護現場は機器の導入やデジタル化が進み、職場環境はすごく快適になっていきます。そういった改善面があまり知られていないことが残念ですね。

坪井さん 経営者の立場でお話すると、地域に人がいなくなっていることが大きいと感じています。特に人口の少ない市の北部では、介護に限らずあらゆる業種で人材が不足している。人口減少に対して、大変な危機感を持っています。

― 人材不足の解決には何が必要でしょうか。

藤原さん 介護現場の実態を知ってもらうことが大切だと思っています。私の勤務先には介護リフトがあり、体格や力の強さに関係なく、安全な介護ができるようになりました。台に横になったままの状態、体を洗うことができる機器もあります。介護の仕事が肉体的にかなり楽になっていくことが伝われば、イメージアップになるのではないのでしょうか。

坪井さん 介護で人を国東に呼ぶことができないかと思っています。「高齢化社会の最先端」の国東に、大学などに介護の調査研究の拠点を置いてもらったり、都市部の方に介護目的でご家族一緒に国東に移住してもらったりといった方法ですね。それと、やはり欠かせないのが、介護従事者の社会的な地位の向上と、介護のイメージアップです。

小川課長 お二人がおっしゃるように、市としても介護のイメージアップが必要だと感じていました。そこで今年、イメージアップを目的とした「介護の写真コンテスト」を市主催で行いま